

## 第2回黒島小中学校検討委員会議事録

1 日 時 平成28年12月14日(水) 19:00～21:00

2 場 所 黒島小・中学校 校長室

3 参加者 牧野・濱田・大村・鶴崎・浅田・松崎・月川・高田・木下・山崎・戸田  
(欠席：古里) ※敬称略

### 4 協議事項

(1) 特認校制度(校区外からの児童生徒の受け入れ制度)について

- いじめられたら心配。特認校に対して一家庭でも反対があれば特認校を認めるわけにはいかない。
- あくまで先取りとして特認校を提案している。
- 高知の学校は、自宅から通っているところが黒島とは異なる。
- 校区内に在籍する児童生徒であれば、受け入れることになる。特認校になると、不登校生、素行のよくない生徒などが来るかもしれない。どんな子がくるかわからず不安である。
- 黒島に来た場合、その児童生徒の見守りができるのか不安である。
- 小学校校舎の跡地利用として施設の改修をしないといけない。改修には、2～3年かかる。里親として受け入れようという計画案もある。島留学については、ある程度、島民に賛同を得ないといけない。
- 大村市(黒木小)にも特認校制度があり、地域の活性化につながっている。
- 福岡県宗像市地島(じのしま)の池島小は1年間だけ島留学を認めており、島に勝つ欲をもたらしている。携帯電話なし、連絡は電話だけという状況。
- 不登校生のセカンドチャレンジとして島留学があるといいのではないか。
- 不登校のセカンドチャレンジであれば、応援したい。
- 佐世保市にある青少年センターには、不登校の生徒が通っている。最終的には、学校に登校できることを目標としている。
- 島外から受け入れると、自分の子どもが不登校になるのではないかと心配。
- 島民・保護者は、子どもが減っていくことはしかたがないと思っているのではないか。
- 黒島小学校の修学旅行では、今回、大崎分校の児童と一緒にいった。修学旅行前にテレビ会議でお互いの紹介をした。子ども達は、「生まれて初めて友達ができた。」「生まれて初めて同級生ができた。」とあって喜び、帰りの船の中で別れのつらさから泣いていた。友達がほしいという子どもの気持ちは、切実である。
- 島留学は、手放しでよいとは言えない。
- 特認校に関係なく、まずは孫留学から始めていくのがいいのではないか。黒島に来るとしたら、不登校生が多いのではないか。不登校生で島に行きたいというと考えている子は、勇気がある子だと思う。特認校制度は、現段階では時期尚早かもしれない。佐世保市の施策として上がったときに検討するのはどうか。
- 小学校跡地利用では、島留学を優先的にすすめていきたい。黒島として、今後、いろいろな意見をまとめていかないといけない。佐世保市としては、まず、島の意見を求

めている段階である。保護者の心情としては、島外の児童生徒を受け入れることについては、心配なのは当然だと思うが、「新校舎ができて子どもがゼロになりました。」では、話にならない。一面的に考えるのではなく、多面的に考えないといけない。

- 子どもがいなくなってから考えればいいのではないか。
- 今から準備にとりかからないと間に合わない。佐世保市と話し合いができるところまではすすめていかないといけない。
- 跡地利用については早急に話を進めていかないといけない。
- 跡地については、延べ床面積分はお金が出る。介護施設にすることもできる。小学校の跡地につくるかつくらないは、別の会で話し合っていたきたい。
- 素行の悪い子どもが来て、黒島の子どもが不登校にならないか心配である。
- 要望書の提出について要望書として、特認校制度については要望しないことを確認。
- 要望書の一つ目の義務教育学校にしてほしいという点については市教委がもちかけた話なのに、こちらから要望書を提出するのはおかしいのではないか。
- 義務教育学校になることについて、7月の自治協議会設立準備会の際に出席者全員に対して市教委から説明があり、全町内会長さん等に説明が終わっている。予算を取るためには、まず議会の了承がいる。まず、学校、保護者、地域の承諾を得ているという形が必要であり、議会で承認されて決定となる。そのようなことから、この要望書の一つ目が必要だと考える。

## (2) 周知について

- マスコミより先に、義務教育学校になっていくことについて黒島島民に伝えるようにしたい。そのために、「黒島小中学校のあり方検討委員会だより」を定期的に発行して周知していく。
- 大まかな議事録についてもホームページに掲載し、情報公開をできるだけ行っていきたい。便りは、黒島町民に回覧することで、黒島町民が知らないことがないようにしていきたい。

## (3) 校歌について

- 現在の校歌には、愛着がある。俵ヶ浦小は、今年度で閉校なので、小学校音楽発表会では校歌を斉唱し、とてもよかった。やはり、校歌というのは子どもだけでなく保護者・地域・教職員にとっても思い入れのあるものである。

## (4) 校名募集について

- 校名が決まったら、校門に飾るレリーフを佐世保観光大使の Takahiro に書いてもらうのはどうか。
- 子どもに手紙を書いてもらい、市役所の観光課に送るなどの方法もあるのではないか。

## (5) その他

- 子どもがいなくなった場合、黒島小・中学校の場合は、廃校ではなく、休校になるということを、小学校と中学校が併設校になるときに確認している。
- 子どもが減ると、校舎の掃除が大変。

以 上